



Data 2022-52

監督: ジャック・オディアール
脚本: ジャック・オディアール/セ
リーヌ・シアマ/レア・ミシ
ウス
出演: ルーシー・チャン/マキタ・
サンバ/ノエミ・メルラン/
ジェニー・ベス

👁️👁️ みどころ

大阪市北区は私の居住地で、阿倍野区は再開発を巡る行政訴訟を闘った地区だが、パリ13区（の特徴）は？それを押さえたうえで、そこに住む台湾系女性とアフリカ系男性の“セックスの相性”の良さから始まる、今ドキの若者たち4人の物語を楽しみたい。

パルムドール賞受賞歴のある70歳の巨匠が、2人の女性脚本家の力を借りてこんなテーマに挑んだのは意外だが、その成否は？

32歳で大学に復学。そんな女性なら申し分なしと思ってしまうが、SNS全盛時代の今はちょっとしたミスが命取り！そんなストーリー展開の中でも、最後は“女同士の相性の良さ”があれば、救済に・・・？

パリ発の今ドキの若者たちの生態と性態を描く 트렌디ドラマとして、しっかり楽しみたい。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■ 「パリ13区」とは？都市問題の視点から ■□■

私は大阪市が施行する阿倍野再開発を巡る行政訴訟を提起し勝訴したが、大阪市阿倍野区はかつて「てんのじ村」と呼ばれた、庶民的な（泥臭い？）地区。「阪急村」がある大阪市北区の洗練された（？）地区とは大違いだ。しかし、「パリ13区」とは？

本作の英題は『Paris, 13th District』だが、原題は本作の舞台になった『Les Olympiades (レ・ゾランピアード)』。ここは高層住宅が連なる再開発地区であると共に、フランス最大のアジア人街で、アジア系移民が多く暮らしているから、古都パリのイメージとは全く違うらしい。私も1988年に一度だけヨーロッパの再開発視察旅行に行き、パリ市内を歩き回ったが、本作冒頭に見る13区を中心とするパリの全貌は、そりゃ素晴らしい。とりわけ13区は近時、世界最大規模のスタートアップ・キャンパス「スタシオン・エフ」

や、ファッションデザイナーのアニエスベーによる現代美術館「ラ・ファブ」が誕生し、さらに注目を浴びているそうだから、まさに現代のパリを象徴するエリア。私は大阪市北区に居住しているが、その周辺にある中之島地区では、川辺の賑わいづくりや美術館の建設等、素晴らしい環境づくりが進んでいるから、それと同じようなものだろう。

都市問題をライフワークとして約40年間続けてきた私にとって、そんなタイトルの本作は必見。そんな「パリ13区」を舞台に生きる、今時の若者たちの生態(性態)は？

■□■70歳の巨匠が3つの短編を元に2人の女性脚本家と！■□■

本作のジャック・オディアール監督は、『ディーバンの闘い』(15年)、『シネマ37』(126頁)でカンヌ国際映画祭パルムドーム賞を受賞した監督だから、私もよく知っている。続く『ゴールデン・リバー』(18年)、『シネマ45』(112頁)もさまざまな賞を受賞した名作だった。

両者ともいかにもジャック・オディアール監督らしい素晴らしい問題提起作だったが、本作では一転して、アメリカのグラフィティ作家エイドリアン・トミネの3つの短編を元に、セリーヌ・シアマ、レア・ミシウスという2人の女性脚本家と共に、パリ13区で生きる3人の男女の恋愛模様を取り上げた。チラシには、「監督・脚本ジャック・オディアール×脚本セリーヌ・シアマ×脚本レア・ミシウス 世代を超えたコラボレーションで描く“新しいパリ”、「気軽に人とつながれても、愛を深めるのは簡単じゃない。迷いながらも何かを求め続ける大人たちの恋愛物語。」と書かれている。たしかにそれは間違いなく、今を物語る映画かもしれないが、それだけでは映画祭での受賞はムリ！？そんな私の予想通り、本作は第74回カンヌ国際映画祭ではサウンドトラック賞(Rone)の受賞のみに……。

■□■物語は台湾系フランス人エミリーのアパートから■□■

本作の第1の主人公は、高学歴ながらもコールセンターでオペレーターとして働く台湾系フランス人の女性エミリー(ルーシー・チャン)。彼女が住むパリ13区のアパートへのルームメイト募集から始まる本作の物語は、①アフリカ系フランス人の高校教師カミーユ(マキタ・サンバ)からの応募、②カミーユと聞いて女性だと勘違いしたことによる来訪と面接、③自由を束縛しない好条件の提示による合意成立、④即日からの同居の開始、に至るから、ビックリ！

他方、本作の冒頭に見る、いかに自分のリビングルームとはいえ、素っ裸でくつろぐエミリーの姿にビックリなら、引っ越してきたカミーユといきなり始まるセックスにもビックリだ。ここまで“性の解放”が必要なの？1960～70年代に“性の解放”を主張してきた私でも、本作を見ていると、さすがにそう思ってしまう。しかし、今ドキの若者はお互いを知るの二の次で、“まずはセックスから”らしい。しかし、いくら2人の若い女性脚本家の応援を得たとはいえ、70歳のジャック・オディアール監督が最初からそんなストーリー展開に持ち込む本作にビックリ！

■□■ノラの物語は？3人の主人公はそれぞれ暗礁に！■□■

本作のもう一人の主人公は、32歳でソルボンヌ大学法学部に復学してきた女性ノラ（ノエミ・メルラン）。勉強意欲に燃えて講義に出席したノラだが、他方で、クラスメイト作りも大切と考え、学生たちが企画するパーティーにド派手な金髪ウィッグ姿で乗り込んだことが裏目に。その姿が元ポルノスターでカムギャルにそっくりだったことから、“アンバー・スウィート”（ジェニー・ベス）本人と誤解され、“アンバー・スウィート”のポルノ動画がSNSで拡散されたから大変。ノラは大学にいられなくなってしまうことに。なるほど、なるほど。今ドキの学生生活では、こんなことも有り得るのかも・・・。

他方、エミリーの方は、カミーユとのセックスの相性の良さに惚れ込み、恋心を抱き始めたにもかかわらず、はっきりと一線を引かれたため、たちまち2人の関係はギクシャク状態。そんな中で、本来の恋人（？）を部屋の中に引っ張り込んだカミーユにエミリーが嫌味を言ったため（？）、カミーユは荷物をまとめてアパートを出してしまうことに。何とまあ、単純な・・・。

さらに、カミーユには吃音のある16歳の妹エポニーヌ（カミーユ・レオン＝フュシアン）がいたが、彼女が懸命に取り組んでいるスタンダップコメディを彼が頭ごなしに批判したため、父親を含む3人家族は陰悪な雰囲気。こんなふうには3人の主人公の生活はそれぞれ三者三様の形で暗礁に乗り上げてしまったが、それぞれこれをどう打開していくの？

■□■三者三様の“変わり身”と“再生”は如何に？■□■

人生は「七転び八起き」だし、「万事塞翁が馬」。したがって、三者三様の形で暗礁に乗り上げてしまった3人の主人公たちも、絶望することなく、それぞれの“変わり身”の中で再生をはかりたい。本作中盤は、そんな私の期待通り（？）、①エミリーは中華レストランのホールスタッフとして働きながら“やる”ことを目的に出会い系アプリを始め、②カミーユは教師職を休業し、一時的に友人の不動産会社を手伝うことに。そして、③大学を追われたノラは、ボルドーにある叔父の不動産会社に勤務していた10年のキャリアを生かし、求人紙の張り紙のあった事務所へと向かうことに。

大学3回生の20歳の誕生日に司法試験への挑戦を決意して基本書を購入し、以降今まで50年以上その道一筋にやってきた私の目から見れば、本作に見るそんな三者三様の“変わり身”の評価は微妙。つまり、一面では肯定的だが、他面では否定的に思えてしまう。とりわけ、32歳で復学しながら、すぐにつまらない騒動に巻き込まれた挙句、腰かけ仕事に従事していくノラの“変わり身”は肯定できない。また、エミリーとカミーユの同居の開始と決別の理由になった“セックスの相性”も私にはイマイチわからないが、本作ではそれだけにとどまらず、その後、カミーユはエミリーと連絡を取るによって再会を果たしていくので、それにも注目！

20～30歳代は自分で責任を取りさえすれば何をやっても自由。私はそう思うし、三

者三様の“変わり身”にも納得だが、あまり同調できないのは一体なぜ・・・？

■□■ 4人目の主人公が浮上！女同士の相性は？ ■□■

本作は、はじめて出会ったエミリーとカミーユとのセックスの相性が抜群に良かったことがきっかけになってストーリーが進んでいく。そして、3人の主人公がそれぞれ暗礁に乗り上げた後、中盤では三者三様の“変わり身”を見せながら、更なるストーリーが進んでいく。そんな中、女好きの(?)カミーユは、聖女のようなノラに惹かれながらも、同時にユーモアセンスのあるエミリーも恋しいらしい。そのため、本作ではカミーユのいわゆる“二股かけ”の姿に注目すると共に、彼の選択がどちらになるのかにも注目したい。しかし、本作ではそれ以上に、ラストに向けて、前半では端役と思われていたアンバー・スウィートが4人目の主役として浮上してくるので、それに注目！

パソコン上のポルノ動画は私も見たことがあるが、扱いが面倒なうえ、映画に比べても全然面白くないから、私はそれにハマったことはない。それはノラも同じだったが、ある日アンバー・スウィートのアダルトサイトにアクセスし、自分自身の身に起きたことを話し始めると、アンバーは親身になって相談に乗ってくれたからアレ・・・。当初のそれはポルノ動画を見るのと同じように数分ごとに追加料金が必要だったが、ある時からはプライベートな回線でつながることに。そうなると、ノラにとっては画面越しのアンバーとの会話が何よりも大切で、濃密な時間になっていったらしい。そして、意外だったのは、この2人の“女同士の相性”が抜群だったこと。しかして、この2人のバーチャル世界ではなく、画面を越えた現実世界での接点は？

さあ、パリ13区なればこそこの4人の主人公たちの今ドキの物語の面白さは如何に？パリ発の今ドキの若者たちの生態と性態を描く 트렌디드라마として、しっかり楽しみたい。

2022 (令和4) 年5月7日記